

# 大阪市立小学校デジタルドリル運用保守業務委託提案書評価表

	記載依頼事項	評価ポイント	加重点	配点
<b>I 機能要件について</b>				
<b>1 対象教科、本市採択教科書について</b>				
①	・ドリル教材の対象学年、教科について記述すること。	・仕様書に記載の教科範囲を掲載しているかを評価する。 ・小学校の外国語活動など、仕様書に記載以上の教科を掲載しているなど、仕様に記載の内容以上の範囲を利用可能な提案となっている場合は高く評価する。	6	30
②	・文部科学省学習指導要領に準拠しているかどうか、本市採用の教科書の学習内容に対応しているかどうかについて記述すること。 ・教科書に準拠している場合、準拠しているレベル（単元配列レベル、問題レベル等）についても記述すること。	・文部科学省学習指導要領に準拠しているか、本市採用の教科書の学習内容に対応しているかを評価する。 ・問題レベルで本市採用の教科書に準拠している場合は高く評価する。	8	40
<b>2 各教科について</b>				
①	・掲載している総問題数および各教科の問題数を記述すること。	・掲載している総問題数および各教科の問題数について評価する。	4	20
②	・すべての教科について、掲載している問題の観点や難易度等を記述すること。	・すべての教科において、思考力・判断力・表現力等を問う問題を有するかを評価する。 ・表やグラフを読み取って判断するなど、二段階思考を経て解決する問題を有する場合は高く評価する。	6	30
③	・単元のまとめ問題について、掲載している問題の内容を記述すること。	・全教科における各単元のまとめ問題の内容について評価する。 ・小単元やトピックス、学期単位、領域単位など単元以外のまとめ問題を有する場合は高く評価する。 ・1つの単元につき、難易度別や観点別など内容の軽重をつけたまとめ問題を有する場合は高く評価する。	6	30
④	・CBT形式で実施する単元テストについて記述すること。 ・問題の組み合わせや配点の変更等、単元テスト作成に係る機能について記述すること。 ・採点結果がどのように表示されるか、観点別の有無などの詳細を記述すること。 ・不正検知の仕組みについて記述すること。	・CBT形式で実施する単元テストの機能について評価する。 ・教員自身が問題をカスタマイズしてテストを作成すること（問題のカスタマイズ）ができたり、採点結果が観点ごとに分類され、配点や評価観点も変更（観点別評価）できたり、テスト中に他サイトへアクセスをするなど、いわゆるカンニングとみなされる行為を教員に知らせたり（不正検知システム）といった機能を有する場合は高く評価する。	10	50
⑤	・国語の搭載問題の種類や特徴について記述すること。	・本市採用の教科書に完全準拠した物語文や説明文の読解問題について評価する。 ・ドリル、単元まとめ問題、単元テスト（CBT形式）のすべてに教科書に完全準拠する問題を有する場合は高く評価する。	10	50
⑥	・英語の搭載問題の領域について記述すること。 ・「聞くこと」領域において搭載しているリスニング問題の数を記述すること。	・「読むこと」「聞くこと」「書くこと」領域の問題について評価する。 ・「聞くこと」領域においてリスニング問題が充実している場合は高く評価する。 ・「話すこと」の領域の問題を有する場合は高く評価する。	8	40
<b>3 個別機能について</b>				
①	・解答の入力方法について記述すること。	・問題の種類や解答形式に応じた入力方法について最適な方法が採用されているか評価する。 ・√や分数などの数式入力パッドを有する場合は高く評価する。	6	30
②	・算数について、途中式等、学習者の思考の過程を記載できる機能について記述すること。 ・学習者の思考の過程の画面が、採点後も振り返って確認できる場合は記述すること。	・算数について、途中式等、学習者の思考の過程を記載できる機能について評価する。 ・学習者の思考の過程の画面を、採点後も振り返って確認できる場合は高く評価する。	6	30
③	・アダプティブラーニングの機能について記述すること。 ・遡り学習の範囲について記述すること。（単元内、学年内、領域内、教科内、教科横断等）	・回答状況に応じて、単元や学年を遡った問題や関連問題等が自動的に提案される等の機能について評価する。 ・誤答やつまずきを分析して、学年や教科等横断的に問題が提案される場合は高く評価する。 ・短時間で正答できた場合や類題に連続して正解している場合などに、発展問題が出題されるなどの機能を有する場合は高く評価する。	10	50

# 大阪市立小学校デジタルドリル運用保守業務委託提案書評価表

	記載依頼事項	評価ポイント	加重点	配点
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CBT形式で実施する単元テストについて記述すること。</li> <li>・単元テストとドリル問題との連携について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストの回答に応じたドリル問題が提案されるか評価する。</li> <li>・誤答以外にも、間違いやすい問題が出題されるなど、全国的な学習履歴をもとに自動出題される場合は高く評価する。</li> </ul>	6	30
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から学習者に課題を配信する機能について記述すること。</li> <li>・学級、学年等のグループ全体や児童個人などの配信単位について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童個人単位で配信できるかなど、教員から学習者に課題を配信する機能について評価する。</li> <li>・解答にかかる時間の目安などが確認できる機能等を有する場合は高く評価する。</li> </ul>	6	30
<b>4 その他</b>				
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説機能について記述すること。</li> <li>・解説機能として提供される内容や動画コンテンツを用いた解説方法などの詳細について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説機能について、児童視点での利便性を評価する。</li> <li>・各教科において解説動画を有する場合は高く評価する。</li> <li>・誤答やつまづきを分析して、個別最適な解説（誤答パターンの特定や段階的なヒント提示等）を提示する機能を有する場合は高く評価する。</li> </ul>	6	30
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの視点を含めた画面表示内容について記述すること。</li> <li>・画面表示（見やすい配色やフォント・ルビの有無）等について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が利用する際に見やすい画面となっているか評価する。</li> <li>・児童がルビの有無等を自分で選択できる場合は高く評価する。</li> </ul>	8	40
<b>II 学習履歴（スタディ・ログ）の把握について</b>				
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自身で確認できる学習履歴や画面について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自身の学習履歴をもとに自己調整しながら学習を進めるためのサポート機能（ダッシュボード等）を有するか、またその機能へのアクセスの良さを評価する。</li> <li>・取り組んだ量（学習時間・取り組んだ問題数等）と質（正答率・回答回数（粘り強さ）等）に関するデータが時系列で視覚的に（グラフ等で）表示され、期間別、教科別、観点別などといった表示方法を選択できるなど、児童の自己調整に資する機能を有する場合は高く評価する。</li> </ul>	8	40
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理ツールで管理できる学習者個人及び学級単位の学習履歴について記述すること。</li> <li>・学習時間・問題数・正答率等、管理できるデータの内容について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の個人及び学級単位の学習履歴について、教員が管理できるデータの内容について評価する。</li> <li>・児童への声掛けに資するサポート機能（ダッシュボードやアシスト機能等）がある場合は高く評価する。</li> </ul>	8	40
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごとの使用状況や学習者の学習履歴を、教育委員会で閲覧できる範囲について記述すること。</li> <li>・大阪市教育委員会で出力できるデータについて記述すること。</li> <li>・教育委員会内の各部署で共有できるアカウント数について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごとの使用状況や学習者の学習履歴を、教育委員会で閲覧および出力できるか評価する。</li> <li>・学校ごとの使用状況や学習者の学習履歴について管理できるデータの内容について評価する。</li> </ul>	6	30
<b>III 研修について</b>				
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時の研修について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時の研修について、実施方法や形態を評価する。</li> <li>・本市の指定場所にて集合研修が実施できる場合などは高く評価する。</li> </ul>	8	40
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル等の整備について記述すること。</li> <li>・使用期間中に操作方法等が変更になった場合、変更点を周知するための資料や活用事例の作成について記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルや活用事例等の充実度や、操作方法等が変更になった場合の対応方法について評価する。</li> </ul>	6	30
<b>IV 追加提案</b>				
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追加の提案について記述すること。</li> </ul>	追加の提案について評価する。	8	40
<b>合計</b>				<b>750</b>